

0.1 シェイクスピア『ヴェニスの商人』

津野義堂訳

4 幕 1 場 ヴェニスの法廷 (いわゆる人肉裁判)

(ドージェ, 高官たち, アントーニオ, バサーニオ, サレーリオ, グラツィアーノ, そのほか)

ドージェ: さて, アントーニオはいるか?

アントーニオ: ここに控えております。

ドージェ: 君も気の毒だな。とんでもない人でなしを相手にしたものだ。情け容赦を知らず, 慈悲というもののかけらも持ち合わせぬ奴だからな。

アントーニオ: 聞き及びますところ, 殿様は相手の過酷なやり方をやわらげるようお骨折りいただいたとか。私としましてもどんな法的手段をもってしても, あの悪魔の意思を変えさせることができないので。こうなつたうちは平常心で相手方の暴虐に相対する用意ができております。

ドージェ: 誰か, 行ってあのユダヤ人を法廷に呼んで来い。

(シャイロック登場)

ドージェ: 場所をあけて, 彼を私の前に立たせなさい。

シャイロックよ, おまえがこうもかたくなな態度を取り続けているのは, みかけの残忍さとは裏腹に, 最後の瞬間に思いもかけぬ慈悲を示すためではないかと, 世間は考え, 私もまたそう思っている。おまえが, 今この王室御用達の商人から担保として要求している 1 ポンドの肉も, 取ろうとは思わないのだろうか。

それどころか, おそらくおまえは彼の損失に同情して, 元金をさえ減額してやろうとしているのだろう。あの王室御用達商人の肩にかかった巨大な損失を見れば, どんな冷酷な心を持つ人間であろうと, いや, 愛情や友情に縁のないトルコ人やタター人だろうが, 同情を誘われずにはいられないというものだ。

ユダヤ人よ。私たちはみな, おまえの優しい答えを期待しているのだ。

シャイロック: 私が目的としているところは, すでに殿様に申し上げております。

私は私たちの神聖なサバトにかけて誓いました。「私の金銭債務証書に書かれている債務の担保を取る」と。

あなた様がそれを拒否なさるなら, あなたの都市国家の名誉と自由に危険な光がさすのですぞ。

私になぜ 3000 ダカットを受け取らず, 肉片を欲しがるとかという, お尋ねではありますが, お答えするつもりはございません。むしろ手前の勝手と申せば, それで答になりましょうか?

もし, 私が家にいるネズミに悩まされたら, ネズミを殺してもらうのに 1 万ダカット出してもよろしいというわけです。どうでしょう? これなら答になりますか?

丸焼きのブタを見るのはどうにも嫌だという人たちがいます。ネコを見ると狂ったようになる人もいます。バグパイブの音をほんのわずか聞いても小用の我慢ができなくなる人もいるのです。

好き嫌いは逆らい難いものです。なぜブタが嫌いなのか, 無害なネコを嫌がるのか, それでもどうしようもなく恥ずかしい反応をしてしまう。お答えとして確かなものはございません。

そのように, 私もわけもなくアントーニオを憎んで, 私の得になることもないこの訴訟を起こしている。こんな答えで満足されますか?

バサーニオ: 何と冷血な奴! 答えになんかなるものか! この残忍さの言い訳になりようがない!

シャイロック: あんたを喜ばせる義理はないのでね。

バサーニオ: 嫌いなら殺す? いったいそれでも人間か?

シャイロック: 本当に憎ければ殺すつてものでしょうか。

バサーニオ: そもそも、批難されたことが憎しみになるとは限らないじゃないか。

シャイロック: なんと? あんたは蛇に二度も咬ませたいのか?

アントーニオ: 頼むから! ユダヤ人が相手だっていうことを考えてくれないか?

まったく。海岸で津波に普通の高さでいてくれるよう頼むようなものだ。なぜ仔羊を食って牝羊を泣かせたのだと狼に聞くほうがましだ。山の松に高枝を揺らして音をたてるな、天に向かって嵐を起こすな、と命令するようなものだ。奴の心をやわらげようと思うならどんな難しい事だってできないわけがない。

お願いだから、奴にもう頼まないでくれ! 無駄なことはやめてくれ!

早く判決をお願いします。あのユダヤ人の望むところをかなえてやりたいんだ!

バサーニオ: 3000 ダカットに対してここに 6000 ダカットある。

シャイロック: その 6000 ダカットの一つずつが六つにわかれて、その一つずつがダカットになったとしても受け取る気はない。私の欲しいのは^{ポンド}担保だ。

ドージェ: 誰にも慈悲をかけない人間が慈悲を望むことができようかな?

シャイロック: 私がどんな判決を恐れるでしょう? 私が間違ったことをしましたか?

あなた方は奴隷をたくさん買ってお持ちになっている。そしてまるでロバやイヌや牝馬のように卑しいことにこき使っておいでだ。なぜならお買いになったからだ。

こう申し上げたら如何なものでしょう? まず彼らを解放しなさい。跡継と結婚させなさい。なぜ彼らは重荷に汗しているのか、彼らの寝床をご自分と同じだけ柔らかく、彼らの皿にご自分と同じご馳走をもっておやりなさい、と。

おそらく「この奴隷は私たちの^{もの}物だ」とお答えになりますね。

私もそのようにお答えしましょう。

彼に要求する「この 1 ポンドの肉は、私が買った物だ」、私の物だ、と言いましょ。私はそれを獲得することを意思します。しかし、私にそれを拒絶されるなら、あなた方の法権利 (法律) は糞食らえだ! ヴェネチアの法律には何の実効性もないってことだ。判決を求めます。

私はそれを取れるでしょうか? 答えてください。

ドージェ: 私は私の権力でこの法廷を閉廷させることもできるのだが。実は、この事件を判断してもらうために、今日、学識あるベラーリオ博士をお迎えすることになっている。

サレリオ: 殿様、外にパドヴァから、博士の手紙を持って使者が着きました。

ドージェ: 手紙を私に持って来なさい。それから使者を呼び入れるように。

バサーニオ: 元気をだせ、アントーニオ! おい、君、勇気を持って! 私の肉でも血でも骨でも何でもユダヤ人にくれてやったとしても、君は私のために血の一滴だって失うことはないんだから。

アントーニオ: 私は群れの中の病気の羊だ。死ぬにはもっとも適している。一番弱い果物は真っ先に地面に落ちる。

だから私をほっておいてくれ、バサーニオ。君は長生きして私の墓碑名を書いてくれ。

(裁判所の書記の服装をしてネリッサが登場する)

ドージェ: パドヴァからベラーリオのところから来られたのですね?

ネリッサ: 両方からです。殿様。

ベラーリオから、よろしくとことづかってきました。

(手紙を差し出す)

バサーニオ: ところで、おまえはなんだってそう熱心にナイフを^と研いでるんだ?

シャイロック: あそにいる破産した奴から^{たんぼ}担保を切り取るためさ。

グラツィアーノ: なら、靴底なんかで研がないで心で研いだらどうだ? 思いやりのないユダヤ人!

そのほうがよく切れるようになるんじゃないかね? 首切り役人の斧でも、おまえのねたまほどの切れ味はあるまい。

やっぱりどんな祈りも通じないのか?

シャイロック: だめだ。どんなに戯言^{ざれごと}を言ったってだめだ。

グラツィアーノ: 救いようのないイヌめ!

おまえの命のために正義が批難されるならそのほうがどんなにいいか!

おまえのせいで私の信仰が揺るがされた。ピュタゴラスの意見どおり、獣の魂が人間に潜り込むことがあるらしい。おまえの野良犬のような意地悪な魂は、きっと狼についていたのが人間を食い殺して首をくぐられたんだ。そのとき絞首台から逃げ出しておまえの体に入り込んだに違いない。

だからおまえの望みは残忍で狼のように血に飢えたものなんだ。

シャイロック: そんな言い草で私の金銭債務証書からシールを取り去れると(印章を無効にできると)いうならともかく、大声張り上げて胸が痛くなるだけですよ。

それ、お若い方、今のうちにたわごとはおやめなさい。でないと、救いようってやつがなくなる。

私は自分のを要求してるんだ。

ドージェ: ベラーリオからのこの手紙は、ある若い学識のある博士をこの法廷に推薦している。その方はどこにおられるか?

ネリッサ: 彼はそこに控えています。あなた様が彼の出廷をお許しになるのを待っているのです。

ドージェ: 心から歓迎します。誰か!

3, 4人で行って丁重にご案内しなさい。

その間に法廷にいる諸君はベラーリオの手紙を拝聴することにしよう。

(手紙が読み上げられる)

殿様におかれましては、この手紙を受け取られたとき、私が重い病気であることをご理解いただきますよう。

あなた様からの使者がこちらに着いたとき、偶然私はある若いローマの博士の来訪を受けていました。彼の名はバルサザールといいます。

私は彼にユダヤ人と商人アントーニオの紛争の経緯を話し、二人でいっしょに多くの書物を調べました。この事件について彼は私の意見をよく承知しており、彼自身が学んだことによって、それはさらに改善しています。

それゆえ私は、殿様のお招きをお受けできない私の代わりとして彼を推薦いたします。

彼のように身体の若さに不釣り合いなほど老成した頭脳を持った人間を私は知りません。法廷でご採用になられれば、私が彼を推薦したことに納得していただけるものと存じます。

(バルサザールに扮したポーシャ、法学博士の服装で登場)

ドージェ: 皆さん、学識あるベラーリオが手紙に書いた内容はお聞きになりましたね。

どうやら、その博士がいらっしゃいました。お手をどうぞ。ベラーリオ先生のところからお越しですね?

ポーシャ: はい、そうでございます。

ドージェ: ようこそおいでくださいました。席におつきください。

ところで、この法廷で問題になっている紛争についてはよくご存知ですね?

ポーシャ: 事件のすみからすみまで承ってきました。商人はどちらでユダヤ人はどちらでしょうか?

ドージェ: アントーニオとシャイロック、立って前へ出なさい。

ポーシャ: あなたの名前がシャイロックですか?

シャイロック: シャイロックというのは私の名前です。

ポーシャ: あなたの訴えは妙なものだ。しかし、ベネチア法律にはあなたが訴えるのを拒絶できない決まりがある。

(アントーニオに対して)

ということは、あなたは彼の危険にさらされているということになる。

アントーニオ: そう彼が言っています。

ポーシャ: 担保を自白するか?

アントーニオ: はい、そのとおりです。

ポーシャ: それなら、ユダヤ人が情け深くなるしかないな。

シャイロック: どういうの根拠^{こんきょ}で強制されるんですか? わけを聞かせていただきます。

ポーシャ: 慈悲のクオリティは強制されないところにある。

天からのやさしい雨のようにの滴^{したた}り落ちるものだ。

慈悲は二重に喜ばしい。まず与える人を祝福し、与えられる人を祝福する。

これは最も力のあるものの中で最も偉大なものだ。

それは王冠より、王を王にふさわしいものにする。

手にする杓^{しやく}(王のシンボル)は、かりそめの権力のしるしにすぎない。おそれと威厳の象徴でしかない。

しかし、慈悲は杓を超える。慈悲は王の心の中に座し、それは神自らの属性なのだ。地上の権力は、慈悲が正義に味を添えたとき、神の御姿^{みすがた}を示すのだ。

だからユダヤ人よ。あなたの請求は法的に正義と認められる。

しかしこのことも考えてみよ。

法的に正しいことをただ押し通しても、私たちの誰も救われない。私たちは慈悲を求めて祈っている。この同じ祈りが互いに慈悲を施しあわねばならないと教えているのだ。

あなたの、正義を実現するという請求を少しでもやわらげられればと、このように言ったわけだが、それでもあなたがこだわるのなら、ヴェネチアのこの厳粛な法廷は、あの商人に対して不利な判決を下すよりほかはあるまい。

シャイロック: 私の頭の心配は無用に願いたい。私は法権利^{ロー}を要求しているのだ。私の金銭債務証書^{ボンド}に対するペナルティと担保^{たんぽ}をいただきたいだけだ。

ポーシャ: 現金で払えないというのか?

バサーニオ: できますとも!

この法廷で、彼のために2倍額を支払います。それでも満足しないというなら10倍でもかまいません。私の手を、頭を、心臓を「かた」にしてもいいとさえ申しました。それでもだめだというのは、ただ悪意の証拠としか言いようがない。

お願いでございます。あなたの権威^{オーソリテイ}で一度だけ法を曲げてください。大きな正しいことをするため、小さな悪いことを犯してください。そしてこの残忍な悪魔の意思^とを遂げさせないでください!

ポーシャ: それはあつてはならぬことだ。

ヴェネチアのどんな権力もいったん制定した法律を曲げることはできない。このようなことは先例を記録し、それに習って多くの過ちが行われるだろう。それはあつてはならない。

シャイロック: ダニエル様が判決を下された! 名裁判官ダニエル様だ!

なんと若いのに! 私があなたをどれほど尊敬するか!

ポーシャ: それでは、金銭債務証書^{ボンド}を見せていただけませんか。

シャイロック: これでございます。尊敬する博士様。

ポーシャ: シャイロックよ。これの3倍の現金が提供されるというのに。

シャイロック: いや、誓いですよ。天に誓ったのです。

私の魂に偽証しろとおっしゃるんですか? いやです! ヴェネチアのために、誰が誓いを破るものか!

ポーシャ: 確かにこの金銭債務証書^{ボンド}の期限は切れている。ユダヤ人は肉1ポンドの請求をする権利がある。しかも商人の心臓のごく近いところから切り取る権利だ。

だが、慈悲深くあれ! 3倍の現金を取って私にこの金銭債務証書を破らせてくれ!

シャイロック: そこに書いてあるとおりに支払ってくれさえすれば。

あなたはとても立派な裁判官だ。法律をよくご存知だ。解釈も健全だ。

私はあなたが支えにしている法律に従って判決を下すことを要求しているのです!

私の主張を変えられるものは何もないと、心から誓って申します。私の金銭債務証書^{ポンド}に書いてあるとおりに言っているんです!

アントーニオ: 私の心の底から裁判所をお願いします。判決を下してください。

ポーシャ: それならいたしかたない。しかるべくナイフのために胸を用意しなければならない。

シャイロック: おお、気高い裁判官! おお、立派な若者!

ポーシャ: 法律の意図と目的によって、金銭債務証書^{ポンド}にこのように書いてあることはペナルティとして完全にみあうものである。

シャイロック: そのとおりです。おお、なんと賢くて正しい裁判官だ!

おみかけよりなんと老練な!

ポーシャ: だから、胸をはだけよ。

シャイロック: その胸だ。

そのように金銭債務証書^{ポンド}にあります。違いますか? 裁判官様。文字通り、心臓直近の、と書いてあります。

ポーシャ: そのとおり。ところで肉を計る秤^{はかり}はあるのかね?

シャイロック: 用意してございます。

ポーシャ: それでは、あなたの費用で外科医も呼んでおけ。血が流れ出て死んでしまわないよう傷口を塞ぐためだ。

シャイロック: 金銭債務証書^{ポンド}にはそんなこと書いてありませんが。

ポーシャ: 書いてない、文字通りに言えば。しかしそれくらいのこととはしてやってもよいのではないか?

シャイロック: それはありません。金銭債務証書^{ポンド}には書いてありません。

ポーシャ: 商人よ、何か言うことがあるか?

アントーニオ: 言いたいことはたくさんありますが。覚悟はできています。バサーニオ君、握手だ。ごきげんよう! さようなら!

私が君のために倒れることを嘆かないでくれ!

運命の女神はいつもより親切なんだ。破滅した男を生かしておいて老いてもなお貧困にあえがせるのが普通なんだ。私はそんな目にあわなくて済む!

奥さんによろしく。アントーニオの最後を伝えてくれ。

私がどんなに君を愛していたか!

そしてバサーニオには愛する人間がいなかったかどうか!

君が友人をなくしたことを悲しんでくれるのなら、私は君の債務を負ったことを悔やみはしない。ユダヤ人がきっちり深く切ってくれたら、私の心臓で即時に債務^{べんさい}を弁済できるのだから。

バサーニオ: アントーニオ!

私は、命よりいとしい妻と結婚している。しかし、その命も妻も、いやこの世界のすべても君の命にはかえられない。すべてを失うほうがまだ。この悪魔のためすべてを犠牲にしてもいい!

君を救えるなら!

ポーシャ: それは、それは。あなたの奥さんがそんな申し出を聞いたらあまり感謝するとは思えませんね。

グラツィアーノ: 私にも愛する妻がいるが、この残忍なユダヤ人の心を変えられる力が得られるなら、彼女が天国へ行って神様をお願いしてくれたほうがいいと思う。

ネリッサ: それは、奥さんが居ない所でおっしゃるならともかく、家の中に波風がたちますよ。

シャイロック: まったく、キリスト教徒の亭主^{ていしゅ}というのはこんなものだ。私には娘がいる。キリスト教徒の亭主よりは、バラバの末裔と結婚させるほうがよっぽどまだ。

時間の無駄だ。判決をお願いします!

ポーシャ: この商人の肉1ポンドはあなたのものだ。

法廷がそれを認め、法律がこれを与える。

シャイロック: 実に正しい裁判官だ!

ポーシャ: あなたはその肉を彼の胸から切り取らねばならぬ。

法律がこれを許し、裁判所がこれを認める。

シャイロック: なんと学識のある裁判官だ! 判決が出た! 来い、覚悟しろ!

ポーシャ: ちょっと待つのだ。

まだ、ある。

この金銭債務証書はあなたに血を1滴も与えない。文字通りに書いてあるのは「1ポンドの肉」だ。さあ、あなたのものである1ポンドの肉を取れ!

しかしそれを切り取るのにキリスト教徒の血を1滴でも流したら、あなたの土地と財産はヴェネチアの法律によって没収され、ヴェネチアの国庫のものとなる。

グラツィアーノ: おお、学識ある裁判官! 見たかユダヤ人!

シャイロック: それが法律だというのですか?

ポーシャ: 自分で法文をみるがよい。正義を欲しがったのはあなただ。ゆえに望む以上の正義をあなたに取らせよう。

グラツィアーノ: おお、学識ある裁判官! 聞いたかユダヤ人!

シャイロック: では、この提供を受け入れましょう。

金銭債務証書の3倍額を支払っていただいて、キリスト教徒を自由にするという。

バサーニオ: ほら、現金だ!

ポーシャ: 静かに!

ユダヤ人はすべての正義を取らなければならない。

あわてるな!

彼はペナルティ以外のものは、一切取ってはならないのだ。

グラツィアーノ: どうだユダヤ人! おお、学識ある裁判官!

ポーシャ: だから、肉を切り取る用意をしろ、だが血を流すな。きっかり1ポンド、それより少なくも多くもなく切り取れ! それより僅かでも重くても軽くてもだめだ。秤の一分いや二十分の一分の違いでもだめだ。もし、秤の針が髪の毛ひとすじほども傾いたらあなたの命はない。財産をすべて没収する。

グラツィアーノ: ダニエル様の再来だ! ユダヤ人! ダニエル様だ! どうだ、異教徒! 尻尾を捕まえたぞ!

ポーシャ: ユダヤ人はなぜ黙っているのだ? 早く担保を取れ!

シャイロック: それでは元金だけいただいて、帰らせていただきます。

バサーニオ: ここに用意してある。これだ。

ポーシャ: 彼はそれを公開の法廷で拒絶したのだ。だから彼は正義と担保だけを取らなければならない。

グラツィアーノ: もう一度! ダニエル様だ、ダニエル様の再来だ! いい言葉を教えてくれて礼を言うぞ。

シャイロック: 元金すら取れないというのですか?

ポーシャ: 担保以外は取ってはならぬ。しかも命がけでだ、ユダヤ人。

シャイロック: ならば、悪魔にでもくれてやれ! もう請求は取り下げだ!

ポーシャ: 待て、ユダヤ人。法律は、まだあなたに用がある。

ヴェネチアの法律にはこう決められている。

もし外国人が直接、間接を問わず市民の命を取ろうとしたことが証明されたなら、被害者は加害者の財産の半分を与えられ、あとの半分は国庫に没収する。

加害者の命は、ただドージェの慈悲次第で、ほかの誰の意思にも左右されない。

あなたの場合はまさにこれに該当する。あなたが直接的にも間接的にも、被告の命を取ろうとしたことは明らかである。あなたは、今私が読み聞かせた危険を自分で招いたのだ。

さあ、ひざまづいてドージェの慈悲を乞うがよい。

グラツィアーノ: 首をくくらせてもらえるようお願いするといいいが、財産を国家に没収されたら縄を買うこともできまい。結局おま

えの縛り首は国費でまかなわれるしかないな。

ドージェ: 私たちの精神^{スピリット}が、おまえ(たち)とどれほど違うか見せるために、私はおまえに乞われる前におまえの命を助けることにする。

ただ、財産の半分はアントーニオのものだ。あとの半分は国庫のものだが、場合によっては免除してやることになるだろう。

ポーシャ: そう、それは国庫の分についてで、アントーニオの分は別だ。

シャイロック: いや、命も取っていただきましょう。

赦せとは申しません。大黒柱を取られるなら家を取られるのと同じこと、生きる糧^{かて}を取るなら命を取られるのと同じことだ。

ポーシャ: さてアントーニオ、あなたはどんな慈悲をかけてやれるかな?

グラツィアーノ: 首吊り用の縄をただで。ほかには何もやっちゃだめだ。

アントーニオ: ドージェの殿様と法廷のかたがたにお願い申し上げます。

私は彼の財産の半分に対する罰金も赦していただいて満足なのです。私へのあとの半分は彼の死後、ある紳士に、つまり最近彼の娘を盗んだ男にですが、残すということに彼が承知すればよろしいのです。

もう二つ条件があります。

この恩恵に対して、ユダヤ人が直ちにキリスト教徒になること、もう一つは、彼が死んだときに持っている財産のすべてを彼の娘と彼の義理の息子ロレンツォに贈与することを、この法廷で記録するということです。

ドージェ: よろしい。そうするように、さもなくば、たった今ここで与えた恩赦を取り消すまでだ。

ポーシャ: ユダヤ人、文句があるか?

シャイロック: ございませぬ。

ポーシャ: 書記さん! 贈与の証書を書いてやりなさい。

シャイロック: お願いですから。もうここから立ち去らせてください。気分が悪いのです。

証書はあとから送ってください。署名はきつとしますから。

ドージェ: 行ってよい。だが、きつとするのだぞ!

グラツィアーノ: おい、洗礼の立会人には二人要るぞ。もし俺が裁判官ならあと十人増やして、洗礼盤の代わりに絞首台に送ってやるのに!

(シャイロック退場)